FD シンポジウムに参加して

家政教育・眞鍋　郁代

１．はじめに

今年度は,「地域を核として教育と研究をつなぐ」と題したシンポジウムが開催され,地域を核として 教育と研究を有機的に結びつけておられる先生方から３件の話題提供がなされた．シンポジウムに参加して，各先生方の専門分野において地域貢献，地域に対する教育学部の働きかけの実践例を提示していただくことで，気づきも多くあり，理解を深めることができた．

今回のシンポジウムを聞いて，重要であると感じたことや，参考になったと思った点を受けて，それらに関連して，自らの授業改善について考えたことをまとめる．

２．地域に根差した教員養成を目指して

愛媛大学では，地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムの改革を行おうとしており，その中で教育学部では，地域に根差した教員養成をめざし，地域の発展を促すことのできるような教育及び研究のあり方があらためて問われている．

地域に根差した教員養成課程において，活動として，

①地域に存在する隠れた魅力（地域の伝統産業，特色ある地域の文化など）を見直し，学習教材や授業実践へと発展させ，若い世代がそれらにふれる機会をつくるもの．

②地域における課題（学校の教育現場における課題，地域産業が抱える課題など）に対して，教育学部の教員が研究活動の一環として取り組むことで，得られた知見や課題解決に向けた支援や提案を，地域にフィードバックする．などが考えられたが，今回のシンポジウムにおいてはさらに，③地域の課題解決のために，例えば教育，医療，福祉など広いネットワークを構築することで，継続して専門性の高い知識が得ることができ，またそれが教員の指導力向上にもつながる．

といった事例についても知ることができ，愛媛大学教育学部としての地域貢献は，いろいろな形を取りうることがうかがえた．

３．授業改善の課題・方策・計画について

地域の発展に寄与できる研究や人材育成の輩出という観点から，これからは大学内外を問わず，ネットワークを広げていく必要性を痛感している．

一つには，地域の課題やニーズ，また，地域の新しい魅力を発掘し続けていくだめにも，地域の学校，地元産業の人々と広く情報を交流させる場を持つ努力が必要である．

二つ目には，さらに教科の枠を超えた，または学部を超えて共同で取り組む活動にも目を向けていくことが，これからは必要になってくることが考えられた．

地域の発展を促すような教育活動という観点からの授業改善として，現時点で考えられる方策・計画としては,「①地域に隠れている魅力」を掘り起こして，授業や教材として取り上げ，講義の中での紹介していくことを継続しながら，学生にとっては，自分とは関係のない話題としてとらえられがちになっている「②地域のおける課題やニーズについて，例えば地域の産業や地域の学校にたずさわる方々に，大学教員と学生たちが直接，話を聞いて，知る機会をもつことで，学生の学習活動にも実感を伴わせることができる．

しかし，そのような機会は，一朝一夕にできることではなく大学教員が何度も足を運ぶなどして交流を重ねていき，信頼関係を築くことができてこそ可能になるのだろう．

今回のシンポジウムにおいて，様々な分野の先生方の取り組みの実際について知ることで，地域ならではの研究テーマで，無理に何かを削ることなく取り組む姿を目の当たりにし，元気をいただくことができた．このような貴重な機会をつくっていただいた先生方すべてに，感謝の意をささげたいと思う．